令和７年２月１２日
報 道 発 表 資 料
川崎市（市民文化局）

【川崎市市制 100 周年記念事業】

川崎大空襲の戦災写真をカラー化しました

川崎市市制１００周年を記念し、川崎市平和館（川崎市中原区木月住吉町３３―１)が所蔵する「川崎大空襲の戦災を写した白黒写真」９枚をカラー化しました。

人工知能（ＡＩ）画像認識を使用して白黒写真を自動着色し、空襲体験者にその写真を見てもらい、当時の記憶や体験談を聞き取りながら、写真の色彩を補正する作業を行い完成させました。

カラー化した写真は、令和７年３月８日（土）から５月６日（火）にかけて川崎市平和館において開催する「戦後８０年 川崎大空襲記録展～戦時下の市民生活と川崎大空襲～」で展示します。カラー化した写真を活用し、戦争が市民にもたらした「痛み」を風化させることなく、川崎大空襲の記憶と戦争体験者の想いの継承を図っていきます。

１ カラー化した戦災写真（９枚）

（１）ひそかに撮られた戦災　（市役所３階から明治産業方面を撮影）
（２）市役所付近の焼け跡　（平和通りから市役所方面を撮影）
（３）焼け跡に建つバラック小屋　（渡田新町から市役所方面を撮影）
（４）焦土と化した市街地　（六郷橋付近から市役所方面を撮影）
（５）多摩川下流の惨状　（六郷橋付近から多摩川下流を撮影）
（６）六郷橋付近の焼け跡　（六郷橋付近から蒲田方面を撮影）
（７）迷彩塗装された市役所　（稲毛神社付近から市役所を撮影）
（８）迷彩塗装された警察署　（貝塚通りから川崎警察署方面を撮影）
（９）進駐軍向け案内標識　（新川橋交差点の一角を撮影）

２ 川崎大空襲とは

昭和 20 年（1945）４月 15 日夜半、B－29 爆撃機 194 機が来襲し、焼夷（しょうい）弾 12,748 発（1,072 トン）、高性能爆弾 72 発（18 トン）、破砕性爆弾 98 発（20 トンを投下しました。火災は翌 16 日午前 5 時頃まで続き、川崎市の中心部は市役所などを残して焼野原となりました。被害は全半焼壊家屋 33,361 戸、同工場等 287、罹災者は 10 万人を超えました。川崎市が空襲で出した死者約 1,000 人、負傷者約 15,000 人の大半は、この空襲によるものとみられます。

川崎市は市制 100 周年

次の 100 年に向けて「あたらしい川崎」を生み出していくためのスタートラインとして、
オール川崎市で、多彩な記念事業「**Colors,Future！Actions**」を展開しています。

▶川崎市市制 100 周年記念事業公式ウェブサイト **https://kawasakicity100.jp/**

「全国都市緑化かわさきフェア」

次の 100 年に向けて、みどりについて皆さんと一緒に考え行動することで、誰もが暮らしやすく住み続けたいまちへとつなげていくため、開催します。

▶全国都市緑化かわさきフェア公式サイト **https://green-for-all-kawasaki2024.jp**

ACTION 14
学び

「カラー化した戦災写真」の例

（左：白黒写真 右：カラー化した写真）

写真１　ひそかに撮られた戦災

この写真は川崎大空襲から１０日後に憲兵の目を盗んで川崎市役所３階からひそかに撮られた。（撮影：昭和20(1945)年4月25日）

写真２　市役所付近の焼け跡

川崎市役所(現 復元棟)は防空偽装のために迷彩塗装されていた。戦災復興が始まり、建築中の家屋も見える。（撮影：昭和20(1945)年）

写真３　焼け跡に建つバラック小屋

バラック小屋は焼け残った柱や立ち木、トタン板などを拾い集めて作られた。バラック小屋の手前に防空壕の入口が見える。（撮影：昭和20(1945)年8月頃）

カラー化した写真は、空襲体験者の記憶や資料などを基にできる限りの「再現」を行ったが、実際の色彩と異なっている可能性はある。